

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901175		
法人名	株式会社コスモス		
事業所名	グループホーム太陽(やさい通りユニット)		
所在地	旭川市東旭川町共栄29番地の12		
自己評価作成日	令和3年12月21日	評価結果市町村受理日	令和4年3月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCsvoCd=0172901175-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和4年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景の広がる場所にあり、天気の良い日には施設内から大雪山連邦を一望することができます。
施設内の広い畑ではみんなで菜園を行い、収穫した野菜は新鮮なうちに食卓にあがり、また、利用者さんみんなで調理をしたのじまれています。
入居者一人ひとりが自由に過ごされ、笑いの絶えない生活を送っていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の閑静な住宅地と農地の境目にある平屋建て2ユニットの事業所です。事業所前には幼稚園があり通園時の様子も伺えます。リビングから見渡せる菜園では、利用者が率先して花や野菜を生育し採れたての野菜が食材に使われるほか、園芸療法で自然とのかかわりを通して「癒やし」の効果によるストレスの緩和や、心身の健康回復も図っています。地域のグループホームと交流し、より良いサービスの提供が出来るよう意見交換や情報提供で相互協力をしています。職員には資格取得による賃金加算や有給、希望休の取得など働き甲斐のある職場環境を整えています。コロナ禍による面会支援として、玄関内の受付にあるアクリル板窓越しでの面会や、スマートフォンやタブレットでのウェブ面会の支援を行っています。毎月発行している家族宛の通信には医療情報の他、バイタルを細やかに書き入れ、暮らしぶりを写した写真を添えて郵送しています。前回の外部評価後の結果を即座に検討し、目標達成計画の具体的な改善に取組んでいます。利用者の意向を尊重した暮らしを継続するため、管理者や職員が利用者を支えながら、生き甲斐と楽しみのある生活をサポートをしています。安全で自由に暮らせる質の高い温かみの感じられる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議などで「太陽の理念」について職員間で話し合い、理念の作成を行った。	職員全員で作り替えた理念を、毎回の会議資料に掲載し確認項目として共有をしています。理念のとおり、地域や家族との絆を大切に人格を尊重しながら自立した生活が継続できるよう、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事等はなく、感染予防のため接する機会も設けられなかったが、町内会のゴミ拾いの参加、町内会役員との話し合いは続けている。春には地域のかたに畑を耕していただいた。	感染症対策のため地域との付き合いは限られていますが、町内清掃に参加しています。地域内のグループホームと意見交換会を開催するなどの交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会総会に出席し、グループホームの役割、認知症の理解を伝えており、地域活動の参加をしていきたいが、総会が中止となり、地域活動も少なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の参加者の拡大を図り、新規にご家族2名が加わった。日々の出来事や、ご家族、地域の方への協力をお願い等報告し、サービスの向上に活かしている。	外部との交流を控えているため、運営推進会議は書面での報告となっていますが、開催前に予め管理者がメンバーから意見を得て集約し、議事録を家族へも郵送しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員に参加していただき、事例などをもとに対処策等、意見をいただいている。	行政へは各種の提出物や新規利用者が入居するにあたり必要なPCR検査費用、コロナ関連の連絡、物品購入等で助成金制度を利用するための連絡等を行っています。長寿社会課や指導課などと協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実践しているが、やむを得ない場合や安全確保によりご家族からの要望があった場合、職員会議を行い、拘束を行うこともある。	令和3年は身体拘束・虐待対応委員会を8回開催し、それらに係る研修も2回行っています。やむを得ず身体拘束となる事例では事前に家族からの同意書を得て、経過観察にて再検討をしています。何が拘束や虐待になるのか、内部研修で学んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議のなかで話し合いを行い、職場の研修に参加し自覚をもった介護に努めている。虐待防止委員会を設置し、定期的な研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての学習を通信などを利用して各自行い、制度の理解を高めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に口頭と文書で説明を行い同意を得ている。 重要事項説明の内容に変更があれば、事前に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議で話し合い、それらを運営に反映させている。面談時に、ご家族から運営に関する質問や意見があった場合は、反映させるよう対応している。	利用者ごと毎月写真付きの便りを郵送し、利用者の生活状況や医療情報を報告しています。受診の結果、変化があった場合等は管理者が家族へ報告をしています。家族意見は記録し職員間で共有をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や人事考査の面談の際に、施設長は運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者が全職員へ目標記述書を記入してもらい達成度について評価を行い、育成のための助言をしています。資格取得での賞金増や有給、希望休の取得など労働環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考査制度を導入し、面談の際に職員の意見を聞いている。また、介護資格取得の際の研修費負担など、向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護資格の取得の援助を行うと共に、定期的にインターネットによる個々の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近隣のグループホームの行事に職員が出席し意見交換を行い、サービスの質を向上させる取り組みを行っているが、行事の自粛や中止が多く、電話にて情報交換を行っているのが現状である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人より生活状態を聞き、ご本人の状態に合った支援に努めている。日常の様子や心情が汲み取れる会話は記録し職員間で共有、ご本人、ご家族の意向をできるだけ実現していけるよう周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、悩み等を相談できるように信頼関係作りに努めている。普段の面会時に、ご家族からの要望、不安などに関して聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本当に困っていることや何が必要かを入居者及び家族と共に考えるよう対応した。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と世間話や昔の話をする時間を積極的に設け、関係を築いている。毎日の清掃を一緒に行ったり、定期的に調理のレクを行い、一緒に野菜を刻み、完成までの作業を共に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心していただけるよう、定期的に利用者の様子を手紙や電話連絡、面会時に報告を行っている。ご本人にとっての今の課題について一緒に考えたり、偏りのない支援に繋げる努力を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が、ご親戚、ご友人のかたとの関係が途切れないよう、電話での連絡を行えるように努めている。先方からの電話連絡やはがきが届き、喜ばれている。	塗り絵等の入居後の新たな楽しみを継続できるよう支援をしています。過去の習慣で得意な裁縫や、農家であった利用者には畑の手入れや苗植えで潜在能力が発揮できる場を提供するなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ラジオ体操、レクリエーション、食事のときなど、職員もあいだに入り利用者同士の関係を観察すると共に、共同で生活し支え合えるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、近況やご家族の悩み等を相談に立ち寄れる関係を築けるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日常の会話や様子で得た情報を記録し、共有している。モニタリングのなかでご本人、ご家族の意向や思いを話し合い、本人にとって何がベストであるかを考え、介護計画に反映している。	発語が困難な場合も声掛けを繰り返し、表情や些細な動きで意向を把握しています。日々の会話で家が心配と話す利用者とは、職員が同行し車で旧宅へ行く事もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及びご家族の面会時に聞き取りを行うなど、これまでの生活の把握をしている。また、本人からも話し合いを行い、今までの経過を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や新しい動作、思いなどを観察、記録して介護職員が情報を共有し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングで各担当者から日々の状態を伝え、ご本人、ご家族の意向や要望を取り入れ話し合いを行い、介護計画の作成を行っている。全体会議でもモニタリングを行い、各担当者からの提案を受けている。	カンファレンスで全員のモニタリングを実施し、担当者会議を経て家族や本人の意向を取り入れ、現状に即した介護計画を6か月ごとに作成しています。	アセスメントの更新が滞っていますので、今後の定期更新に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、体調変化など個別に記録し職員で情報を共有している。また、介護計画に沿った記録を行い、問題点や様子を共有し、実践への反映に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の強いかたなどに対し、自宅の訪問などを行ってきた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のかたが耕してくれた畑を開放し、利用者と職員で野菜の苗を植え収穫し、数回に渡り全員で調理を実施している。春には花苗の購入に向き、鉢植えし施設玄関やデッキに飾り、楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。月2回の訪問診療を行い、他科や専門医の受診が必要なときには、受診の支援を行っている。	提携医の往診で定期受診をしており、歯科や他科の診療を含め適切な医療を受けられるよう支援しています。利用者に状態の変化がみられた場合は、訪問看護師が医師と連絡を取り合っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療相談を行っている。日常で気付いたこと、変化などを伝え、早期発見、早期治療に努めている。また、訪問診療医への連絡もいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と施設の受け入れ体制など情報交換を行い、職員会議を開催し、安全、安心に過ごしていただける支援を話し合っている。また、健康状態に応じ食事内容も個別に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合にはご家族と話し合いを行い、ご家族を交え医療機関との話し合いを行っている。「重要事項説明書」及び「重度化した場合における対応に係る指針」に記載し、同意を得ている。また、症状に応じご家族と都度話し合いを行ってきた。	利用契約時に重度化した場合における対応に係る指針を説明し同意を得ています。重度化や終末期が近くなった場合は本人や家族の希望を確認し医療機関への移行支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で緊急時の応急手当について話し合っている。緊急時の対応のマニュアルを作成し、活用している。 年2回の避難訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のガイドラインを作成し、マニュアルの作成中である。避難場所として近隣の学校施設の協力を得ている。	年に2度昼夜を想定した火災避難訓練をしています。嘔吐処理キットを含めた災害時の避難用備蓄品を準備しています。ハザードマップや災害対策マニュアルが用意されています。	自然災害発生時における事業継続計画（BCP）を策定中であるので、その取り組みに期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、周りとの関わりかたを考え、尊重し、今できることを見つけていけるよう努めている。	職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重し、失礼のない対応を心がけています。利用者の持つ特性を見つけて尊重しながら出来ない事の手助けをしています。	利用者に対する職員対応の標準化が望まれます。不適切ケアや接遇等の内部研修を行う計画がありますので、その取り組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人の意思確認を行い、できるだけ自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々に合わせた起床時間や、食事の好みや苦手な食材等にできるだけ対応している。一人ひとりのペースを、可能な限り実現するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装をし、その人らしい身だしなみを支援している。季節毎の衣類の交換など、ご家族にも協力してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間にはテーブル拭き、食膳トレイ拭きを行い、食事の準備に参加していただいている。また、食材の事前準備やカットなどの調理を職員と行っている。	予め決められた献立を3名の職員が交代で調理を担当し、旬の食材や利用者の希望を取り入れたものを提供しています。誕生日や行事では海鮮の出前等を利用しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を把握できるよう個人別に記入し、活用している。食事や水分量の低下が見られたときや、体調を考慮し、食事の内容の検討、水分摂取の工夫を話し合い、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより自力で口腔ケアをしていただき、介助が必要な場合には、介助にて歯磨きや義歯の消毒・洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人個人の排泄パターンを把握できるよう、排泄チェック表を活用し、そのかたにあった時間で声掛けにてトイレ誘導を行い、自力排泄していただけるよう支援している。	回数や状態をトイレ誘導チェック表に記録し、利用者ごとの健康管理表に記入しています。利用者ごとのパターンを把握し、排泄の訴えがなくても、適切に誘導することで失敗を最小限にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できるよう、ご本人の好みの飲み物の提供を定期的に行っている。体操等規則正しい生活が送れるよう支援している。また、排泄チェック表を活用し、主治医の指示により服薬調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日にご本人の体調や拒否のあったときは無理強いせず、ご本人の様子観察を行い、再度声掛けを行ったり、別日に機会を設ける等して入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで過ごしていただくことが多いが、ご本人の体調等に応じて居室で休息していただき、夜間はご本人の生活パターンを尊重し休息していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調や行動の変化があれば、医療相談や訪問診療時に報告を行っている。服薬内容は職員会議で周知し、服薬変更があれば職員間で随時周知に努めている。誤薬のないよう、名前の確認を行い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除、食事の準備、片付けの参加、洗濯物干しを行っていただいている。新聞や雑誌の購読、季節に合った冊子の提供などを行い、利用者や職員との会話を楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるよう、ドライブに出掛け、車窓からの風景を楽しんでいただいている。散歩や外出範囲は、感染予防のため配慮しながら支援を行っている。	感染防止のため外部との接触を避けていますが、対策を徹底したドライブで美瑛、上富良野、東旭川へ出かけています。天気の良い日は事業所の畑作業などで戸外に出て気分転換をすることを支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理しているが、必要に応じて使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に連絡をしたいときには、ご本人の意向に沿って行っている。感染予防のため、ガラス越しの面会やタブレットを使用した顔を見ながらの通話等、ご家族の協力を得て行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる装飾を行っている。また、室温の測定、照明の配慮等過ごしやすい空間作りに努めている。毎日清掃を行い、臭いへの配慮も行っている。	広く明るいリビングは窓から事業所の畑の生育状況や、大雪山の山並みが見え、ソファなど利用者ごとお気に入りの場所に腰掛け自由に過ごしています。午前の体操と午後のゲームやレクの時間で活発な活動の場にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の決まった場所やソファ等で自由に過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた家具や好んで使用されていたものなどをご用意いただき、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	居室にはクローゼット、ベッド、照明器具、カーテンが予め備えられています。自宅で使い慣れた愛着のある物を持ち込み、個性が出せる部屋として利用者ごとに安心した暮らしの環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け、動線の確保を行い、安全に生活できるように支援している。		